

明治安田生命 「家計」に関するアンケート調査を実施！
おこづかい額は「27,037円」と2年ぶりに増加。しかし希望額とは1万円以上の差！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 家計の管理とおこづかい

■**おこづかい額は「27,037円」と2年ぶりに増加。しかし希望額とは実に1万円以上の差が！**

当社チーフエコノミスト小玉 祐一がおこづかい額について分析！

- ・ランチ代は調査開始以来最高！妻のランチ代は「1,263円」と、なんと夫の約1.6倍！（P6）
- ・フルタイムの共働き夫婦では、家計を夫が握っている割合はわずか17.2%！（P7）
- ・社会における女性の活躍に伴い、家計の実権をめぐる夫婦の力関係にも変化が！？

2. 貯蓄とへそくり

■**約2割が貯蓄額0円！貯蓄額は、平均「1,203万円」！**

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が貯蓄額について分析！

- ・妻は「計画的に」、夫は「楽しみのために」貯蓄をする傾向！？（P8）
- ・へそくり金額は全体で約62万円！妻のへそくり金額は夫の約1.5倍！（P11）

3. お金に関する意識

■**家計における景気回復の実感はまだまだ遠い！？**

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が家計の状況について分析！

- ・家計に余裕ができたと答えた人はわずか7.7%！（P13）
- ・節約意識を持っている人は全体の約8割！節約方法は、日常生活の身近なことから！（P15）
- ・節税対策には、ふるさと納税が人気！男性はNISA、iDeCo等を活用した資産運用への関心が高い！（P17）
- ・キャッシュレス化への道はまだ遠い！？持ち歩く金額を「0円」と回答したのはわずか、4.6%！（P18）

4. 働き方とお金

■**生活にゆとりなし！？現在の給与に満足している人はわずか14.3%！**

- ・給与に満足していない理由は、「貯蓄をするお金がないから」がトップ！（P19）
- ・20代男女の約5人に1人が副業をしていると回答！（P20）
- ・潜在的な労働力？約5割の人が「副業をしていないが、興味あり」！
- ・「収入の壁」が女性活躍の壁！？配偶者控除引き上げ後も、約4人に1人が「収入の壁」を意識！「収入の壁」がなければ、約250万円の年収を希望！（P22）

対象者の属性

1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2018年4月2日(月)～4月9日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1, 620人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
男性	135	135	135	135	135	135	810
女性	135	135	135	135	135	135	810
計	270	270	270	270	270	270	1,620

【 目 次 】

1. 家計の管理とおこづかい

- (1) 夫婦のおこづかい 4 ページ
- (2) 夫婦のランチ代 6 ページ
- (3) 夫婦の家計管理 7 ページ

2. 貯蓄とへそくり

- (1) 貯蓄額と貯蓄の目的 8 ページ
- (2) 貯蓄の方法 10 ページ
- (3) へそくり金額とへそくりの目的 11 ページ

3. お金に関する意識

- (1) 家計の状況と理由 13 ページ
- (2) 節約意識と節約方法 15 ページ
- (3) 節税意識と節税方法 17 ページ
- (4) 持ち歩く金額 18 ページ

4. 働き方とお金

- (1) 給与の満足度と理由 19 ページ
- (2) 副業と副業をする理由 20 ページ
- (3) 女性の収入の壁と理想の収入 22 ページ

1. 家計の管理とおこづかい

(1) 夫婦のおこづかい

おこづかい額は「27,037円」と2年ぶりに増加するも
希望額とは実に1万円以上の差が！

○夫婦のおこづかい（月に自由に使えるお金）の金額について聞いてみました。

○全体の月平均額は、昨年から1,955円増加し「27,037円」となりました。

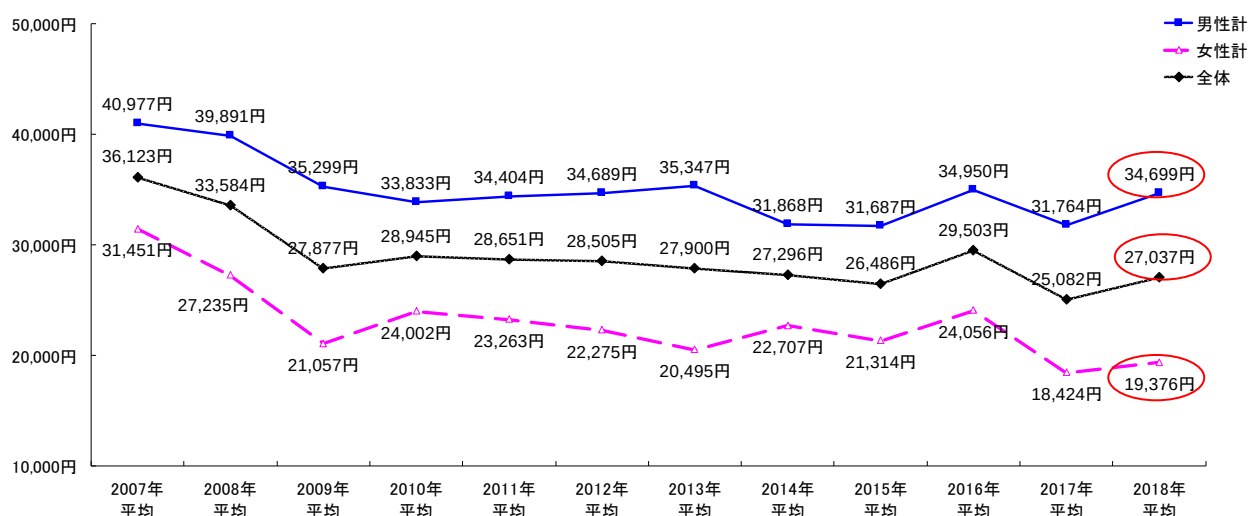
夫婦別では、夫は昨年から2,935円増加し「34,699円」、妻は952円増加し「19,376円」でした。政府が経済界に3%の賃上げを要請するなか、企業の間でも徐々に「賃上げ」の動きが拡大し、消費にも少し明るい兆しが見えはじめているのかもしれませんが。

○また、希望するおこづかい金額を聞いてみたところ、全体では「38,114円」と実際の金額と1万円以上の差がありました。男女別では、夫は「48,245円」と実際の金額と約1万4千円の開きが、妻も「27,984円」と約9千円の開きがありました。夫婦ともに希望するおこづかい金額と現実との差は大きく、日々節約を余儀なくされている方が多いようです。

（※）節約意識と節約方法については、P15参照

Q. 月に自由に使えるお金はいくらですか（金額回答）※20代～50代調べ

【おこづかい金額の推移】



～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●夫婦のおこづかいについて

夫婦のおこづかいは、調査開始以来最低額を記録した2017年から、反転上昇という結果になりました。ただ、これまでの毎年の平均額を下回る状況が続いてます。上昇の背景には、労働市場の需給が一段と引き締めつつあり、特に不足が深刻な非正規社員を中心に、賃金がじわじわと上昇していることがあると思います。ただ、多くの企業は依然として「ベア」には慎重なスタンスを維持していることが、回復の勢いの鈍さに反映されている可能性があります。

【おこづかい金額の詳細】

	回答者数 (人)	0円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	～5万円 (%)	～10万円 (%)	10万円超 (%)	平均 (円)
全体	1080	12.2	8.2	15.8	17.4	20.5	16.9	7.7	1.2	27,037
男性計	540	7.4	5.2	9.8	14.8	25.7	24.4	10.9	1.7	34,699
20代	135	10.4	3.7	15.6	17.0	24.4	20.7	7.4	0.7	29,127
30代	135	7.4	4.4	13.3	16.3	25.9	25.2	5.9	1.5	31,385
40代	135	4.4	5.9	5.9	17.8	31.1	21.5	11.9	1.5	34,800
50代	135	7.4	6.7	4.4	8.1	21.5	30.4	18.5	3.0	43,482
女性計	540	17.0	11.3	21.9	20.0	15.2	9.4	4.4	0.7	19,376
20代	135	23.7	9.6	20.7	20.0	11.9	7.4	6.7	-	18,107
30代	135	17.0	13.3	19.3	20.7	18.5	6.7	3.7	0.7	18,137
40代	135	15.6	14.8	24.4	20.0	11.9	9.6	3.0	0.7	17,771
50代	135	11.9	7.4	23.0	19.3	18.5	14.1	4.4	1.5	23,489

Q. 1カ月に希望するおこづかい金額はいくらですか（金額回答）※20代～50代調べ

	回答者数 (人)	0円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	～5万円 (%)	～10万円 (%)	10万円超 (%)	平均 (円)
全体	1080	7.3	3.6	13.0	15.3	20.3	23.6	14.2	2.8	38,114
男性計	540	5.4	1.3	6.9	11.3	18.9	31.1	21.5	3.7	48,245
20代	135	8.9	2.2	8.9	12.6	20.7	23.7	20.0	3.0	41,986
30代	135	3.7	0.7	5.9	19.3	19.3	33.3	16.3	1.5	42,030
40代	135	5.2	2.2	4.4	5.9	18.5	37.0	22.2	4.4	52,785
50代	135	3.7	-	8.1	7.4	17.0	30.4	27.4	5.9	56,178
女性計	540	9.3	5.9	19.1	19.3	21.7	16.1	6.9	1.9	27,984
20代	135	13.3	3.7	17.8	23.7	18.5	13.3	8.1	1.5	26,843
30代	135	9.6	6.7	19.3	16.3	23.0	16.3	6.7	2.2	28,205
40代	135	8.1	8.9	19.3	23.0	23.0	11.1	5.2	1.5	25,422
50代	135	5.9	4.4	20.0	14.1	22.2	23.7	7.4	2.2	31,467

1. 家計の管理とおこづかい

(2) 夫婦のランチ代

ランチ代は調査開始以来最高！妻のランチ代は「1, 263円」と、なんと夫の約1.6倍！

○夫婦のランチ代について聞いてみました。全体の平均額は昨年から79円増加し、2013年の当項目調査開始以来（※）最高の「1, 042円」となりました。

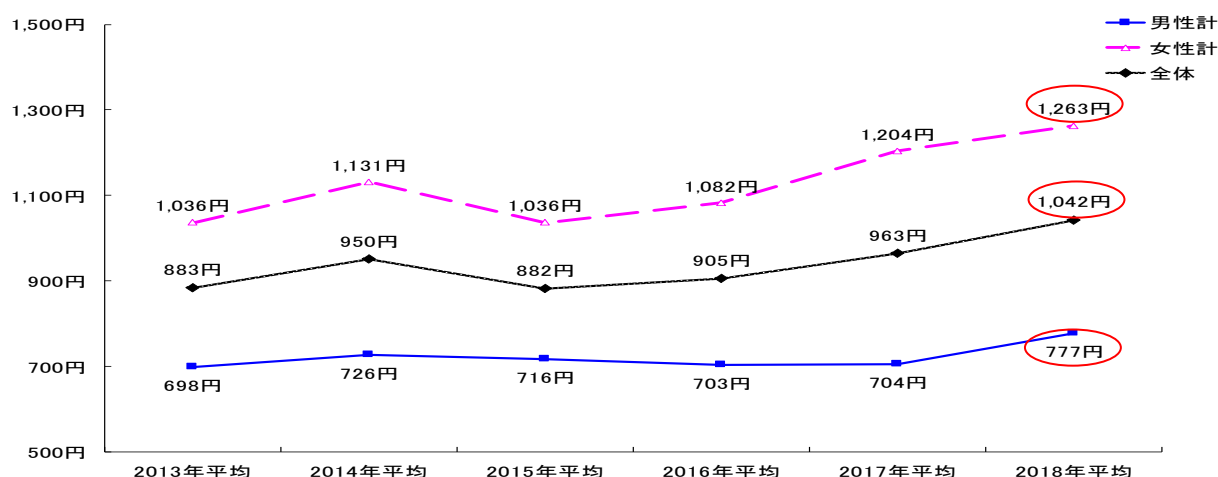
○男女別では、夫は「500円台」（30.4%）が最も多く、平均額は昨年から73円増加し「777円」となりました。一方、妻は「1, 000円～1, 500円未満」（37.1%）が最も多く、次いで「1, 500円以上」（35.7%）となり、平均額は調査開始以来（※）最高の「1, 263円」と、実に夫の約1.6倍の金額となっています。

（※）2013年～2016年は「いい夫婦の日に関するアンケート調査」

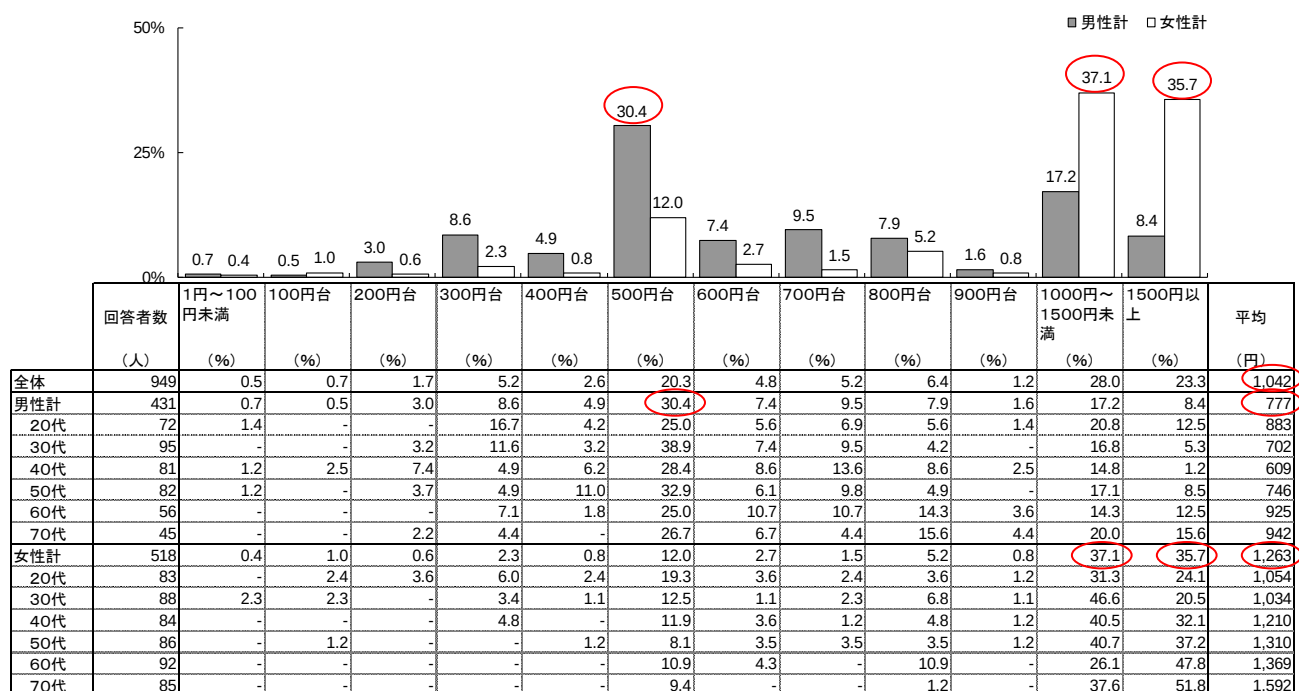
○夫婦間のランチ格差は大きく、夫には少し寂しい結果となりました。

Q. 平日のランチ代は1回いくらですか（金額回答）

【ランチ代の推移】



【ランチ代の詳細】



1. 家計の管理とおこづかい

(3) 夫婦の家計管理

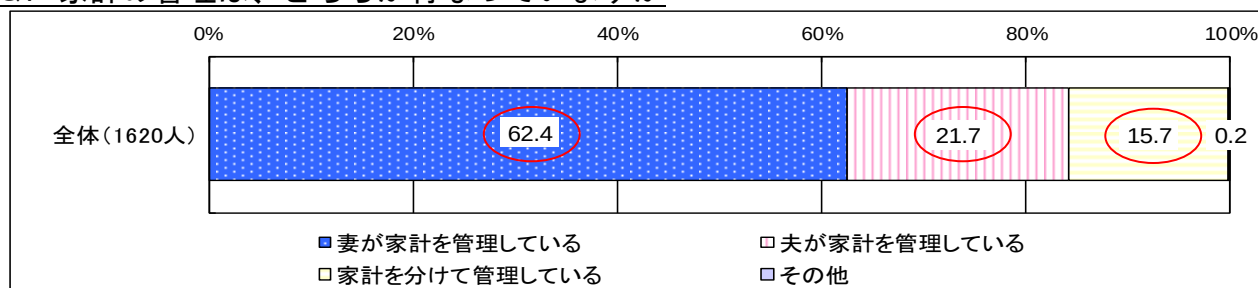
**フルタイムの共働き夫婦では、家計を夫が握っている割合はわずか17.2%！
社会における女性の活躍に伴い、家計の実権をめぐる夫婦の力関係にも変化が！？**

○夫婦の家計管理方法について聞いてみました。

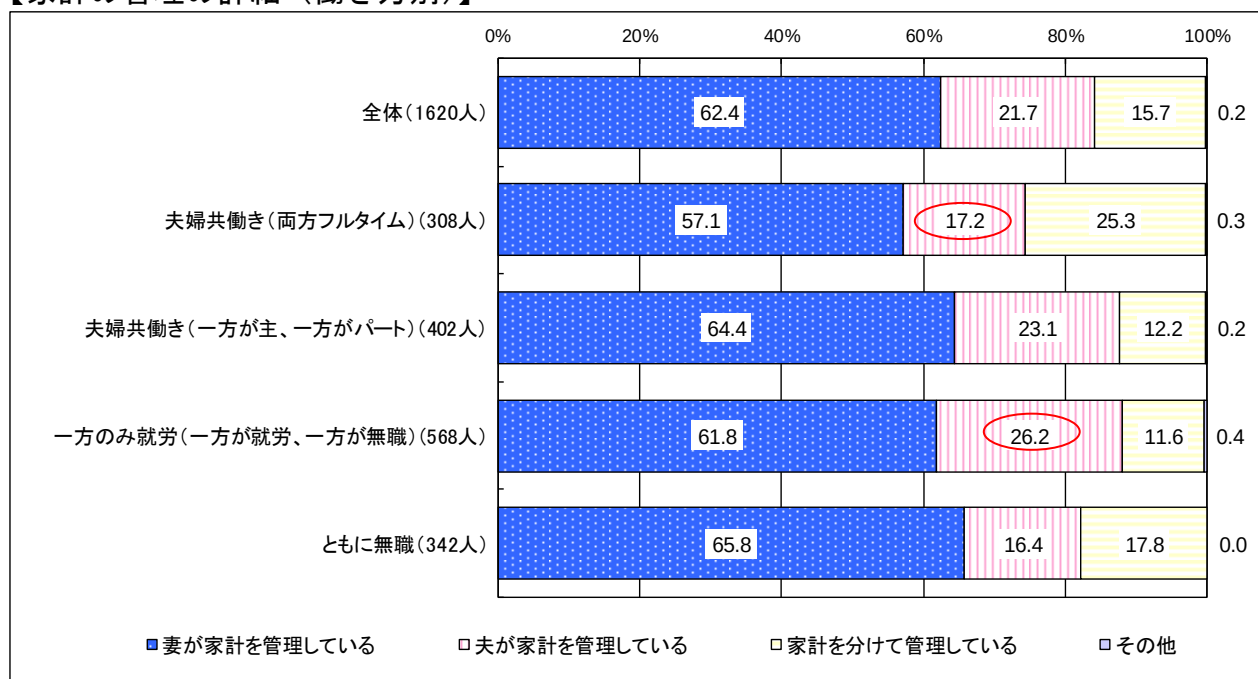
○「妻が家計を管理している」(62.4%)の回答が、「夫が家計を管理している」(21.7%)、「家計を分けて管理している」(15.7%)を大きく上回りました。家庭での財務大臣の座は、圧倒的に女性優位の傾向があるようです。

○夫婦の働き方別にみると、「夫が家計を管理している」割合は、「夫婦共働き（両方フルタイム）」の夫婦では17.2%となり、妻が専業主婦などの「一方のみ就労（一方が終了、一方が無職）」の26.2%と比較すると実に9 p tの開きがあることがわかりました。社会における女性活躍が進むにつれて、家計の実権をめぐる夫婦の力関係も少しずつ変わっているのかもしれません。

Q. 家計の管理は、どちらが行なっていますか



【家計の管理の詳細（働き方別）】



2. 貯蓄とへそくり

(1) 貯蓄額と貯蓄の目的

**約2割が貯蓄額0円！貯蓄額は平均「1, 203万円」！
妻は「計画的に」、夫は「楽しみのために」貯蓄をする傾向！？**

○世帯の貯蓄額と貯蓄の目的について聞いてみました。

○貯蓄額の平均は、「1, 203万円」となりました。内訳は、「0円」(20.8%)がトップ、次いで「100万円～300万円未満」(14.7%)、「500万円～1000万円未満」(14.6%)の順になりました。約2割の世帯が貯蓄額「0円」という結果となり、日々の生活で精一杯で、貯蓄する余裕がない家庭も多いようです。

○また、貯蓄の目的については、「将来のため」(61.9%)がトップ、次いで、「いざという時のため」(58.1%)、「子どもの教育資金のため」(24.9%)という結果になりました。

○男女別では、妻は夫と比べ、「将来のため」「いざという時のため」「子供の教育資金のため」といった長期にわたり計画的に貯蓄をする項目の割合が高い一方、夫は「家族旅行のため」「趣味のため」が妻よりも高く、目先の楽しみを優先する傾向があるようです。

Q. 世帯での貯蓄はいくらありますか(金額回答)

	回答者数 (人)	0円 (%)	～100万円 未満 (%)	～300万円 未満 (%)	～500万円 未満 (%)	～1000万 円未満 (%)	～1500万 円未満 (%)	～2000万 円未満 (%)	～3000万 円未満 (%)	～5000万 円未満 (%)	5000万円 以上 (%)	平均 (万円)
全体	1620	20.8	7.7	14.7	8.6	14.6	10.2	3.6	6.5	6.0	7.2	1,203
男性計	810	21.0	7.3	14.1	8.9	15.2	9.3	4.3	6.0	6.9	7.0	1,240
20代	135	23.0	17.0	22.2	10.4	17.0	7.4	1.5	0.7	-	0.7	322
30代	135	21.5	5.9	23.7	15.6	16.3	5.9	4.4	1.5	4.4	0.7	532
40代	135	19.3	8.1	13.3	11.1	16.3	8.1	5.9	5.9	6.7	5.2	1,241
50代	135	25.2	8.1	8.9	5.2	15.6	10.4	2.2	4.4	11.1	8.9	1,504
60代	135	17.0	4.4	6.7	5.2	12.6	10.4	4.4	14.1	8.1	17.0	2,167
70代	135	20.0	-	9.6	5.9	13.3	13.3	7.4	9.6	11.1	9.6	1,676
女性計	810	20.6	8.1	15.3	8.3	14.0	11.2	3.0	7.0	5.1	7.4	1,166
20代	135	23.0	22.2	23.7	11.1	14.8	3.7	0.7	0.7	-	-	240
30代	135	21.5	12.6	23.7	7.4	20.7	8.9	2.2	2.2	0.7	-	386
40代	135	24.4	5.2	22.2	11.9	11.9	11.9	2.2	5.2	1.5	3.7	659
50代	135	20.7	3.0	8.9	9.6	18.5	17.0	4.4	5.9	3.7	8.1	1,240
60代	135	20.0	4.4	5.9	4.4	12.6	11.1	3.0	13.3	10.4	14.8	1,898
70代	135	14.1	1.5	7.4	5.2	5.2	14.8	5.2	14.8	14.1	17.8	2,570

～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

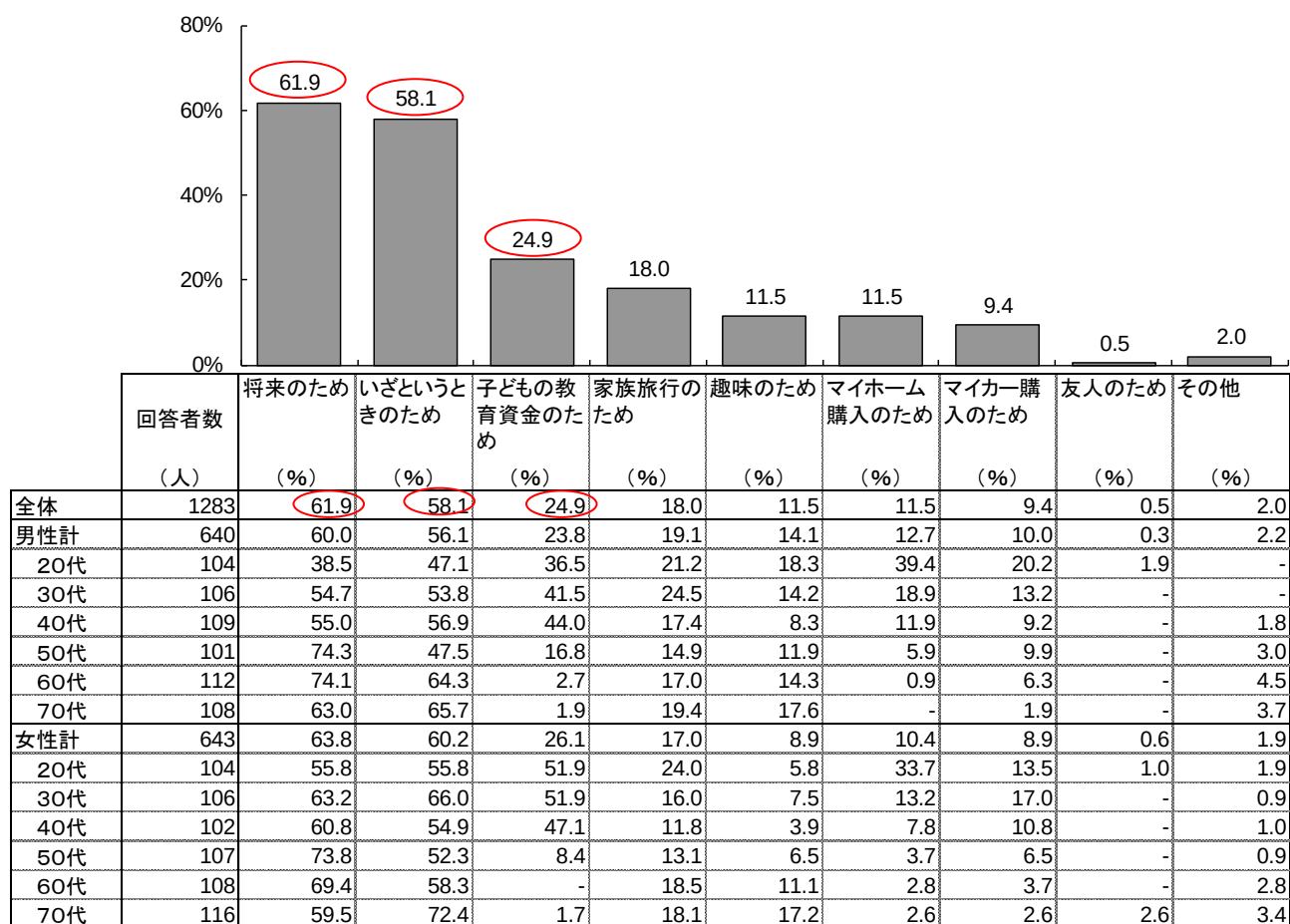
■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●世帯の貯蓄額について

貯蓄額は世代による格差が大きいのが特徴です。20代男性の約6割、20代女性の約7割が300万円未満なのに対し、70代女性は約3割が3000万円以上と答えています。若年世代に余裕がないのは当然ですが、少額でもコツコツ貯めることが、計画的な資産形成に繋がることへの理解を深める必要があるかもしれません。また、中高年齢層については個人消費の活性化が期待されるところですが、たとえ必要以上の貯蓄であっても、「将来のため」「いざという時のため」という漠然とした不安が背景にある限り、個人消費に回る余地は限定的と言えます。

Q. 貯蓄の目的はなんですか（複数回答）



2. 貯蓄とへそくり

(2) 貯蓄の方法

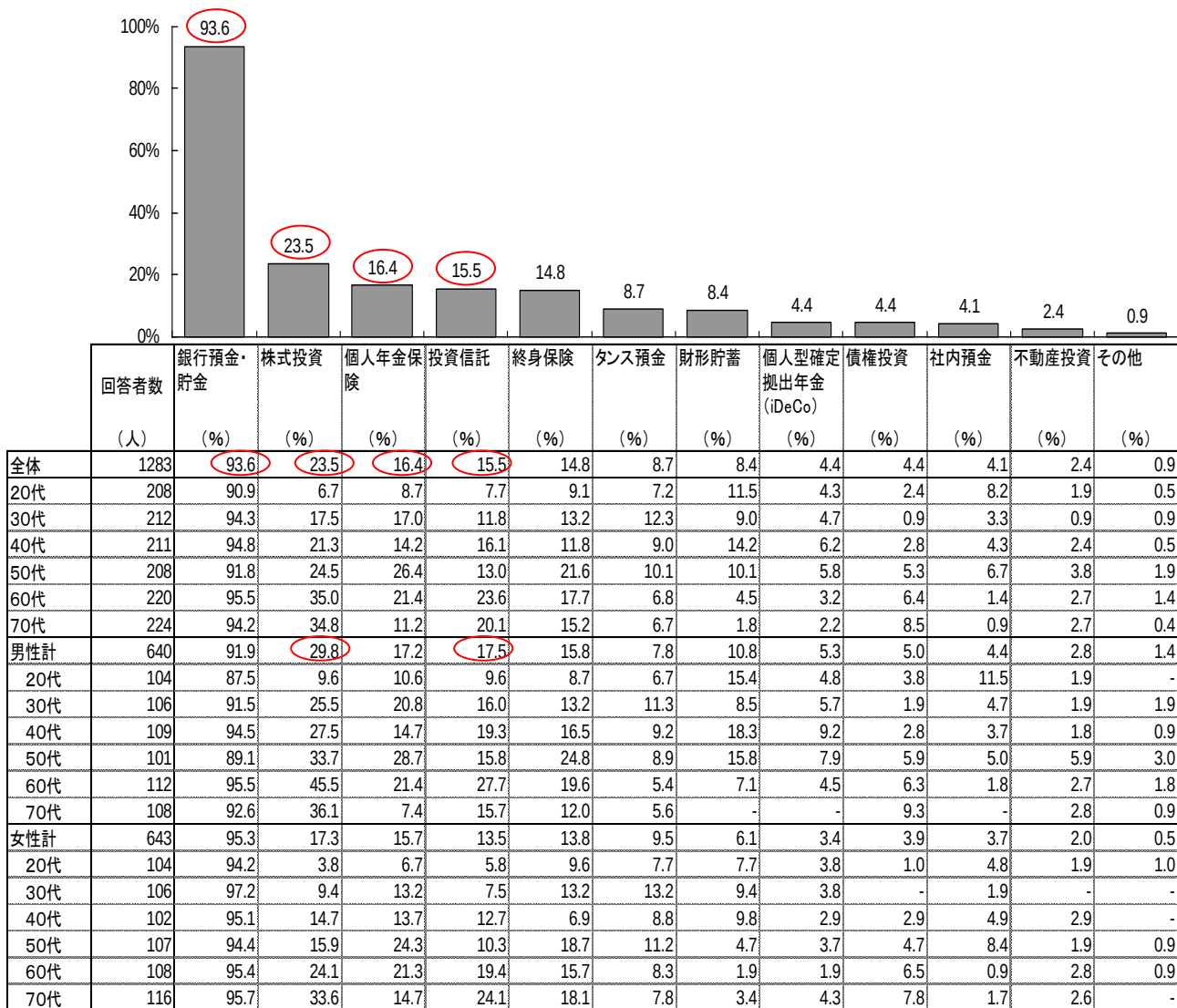
貯蓄方法は、「銀行預金・貯金」が大半！ 男性は女性よりリスクを好む傾向！？

○貯蓄の方法について聞いてみました。

○「銀行預金・貯金」(93.6%)がトップ、次いで「株式投資」(23.5%)、「個人年金保険」(16.4%)、「投資信託」(15.5%)と続いています。政府は貯蓄から投資への流れを推進していますが、地政学リスクの高まり等、先行き不透明な市場環境のなか、依然として家計の中では、「銀行預金・貯金」が圧倒的に高い結果となりました。

○男女別にみると、夫は、「株式投資」(29.8%)、「投資信託」(17.5%)等の投資商品の割合が、妻と比較して高く、リスクを選択する傾向がみられました。

Q. 貯蓄の方法はなんですか（複数回答）



2. 貯蓄とへそくり

(3) へそくり金額とへそくりの目的

へそくり金額は全体で約62万円！

妻のへそくり金額は夫の約1.5倍！

40代ではなんと約4倍、50代では約2.3倍の開きが！

○夫婦のへそくり（配偶者に内緒にしているお金）について聞いてみました。

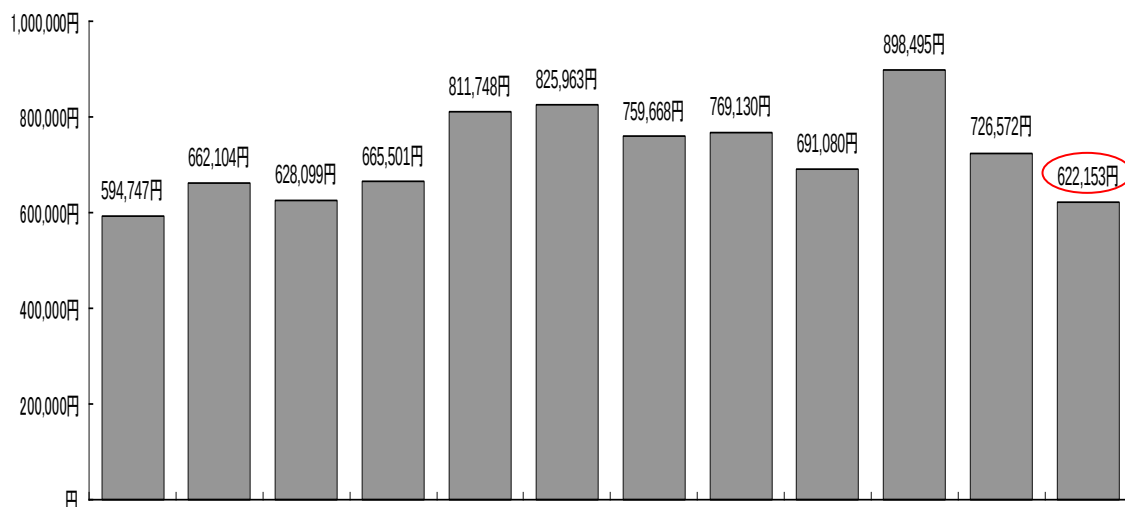
○今年のへそくり金額は20代～50代平均で「622,153円」と、前年から約10万円減少しました。

○また、2013年からは60代・70代のへそくり金額についても調査を実施していますが、20代～70代の平均は、「896,876円」と、こちらも前年から約15万円の減少となりました。

○男女別では、夫が「503,078円」に対し、妻は「741,228円」と夫の約1.5倍近く貯めていることがわかりました。さらに、年代別でみると40代ではなんと約4倍、50代では約2.3倍も妻のへそくり額が夫よりも多いことがわかりました。妻が家計を管理する家庭が多いことも影響しているのかもしれませんが。

○使用目的としては、「いざという時のため」（72.4%）がトップ、次いで、「趣味のため」（35.4%）、「将来のため」（24.3%）という結果となりました。

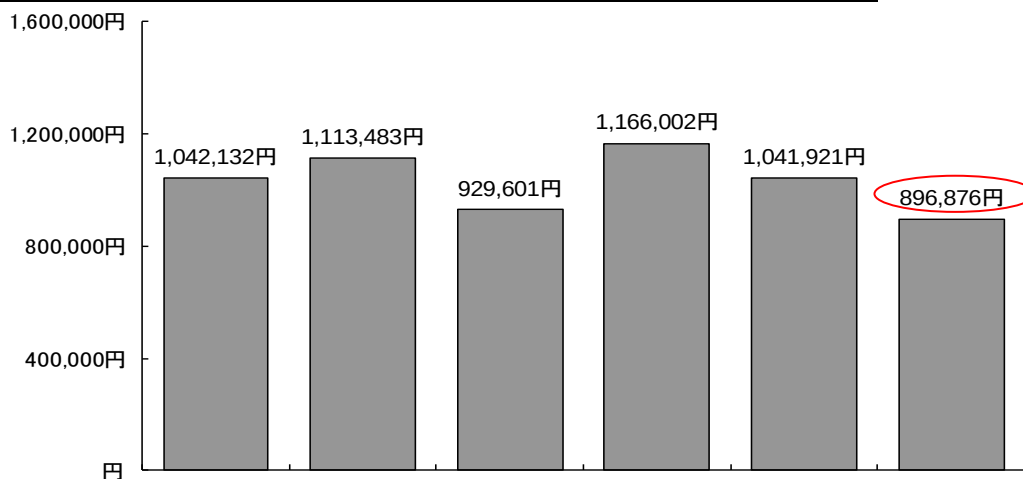
Q. へそくりはいくらありますか（金額回答）※20代～50代調べ（20代～70代はP12参照）



	回答者数 (人)	2006年 平均	2007年 平均	2008年 平均	2010年 平均	2011年 平均	2012年 平均	2013年 平均	2014年 平均	2015年 平均	2016年 平均	2017年 平均	2018年 平均	前年との差
全体	1080	594,747円	662,104円	628,099円	665,501円	811,748円	825,963円	759,668円	769,130円	691,080円	898,495円	726,572円	622,153円	-104,419円
男性計	540	438,421円	405,778円	387,383円	348,244円	452,884円	381,200円	402,796円	352,064円	405,729円	713,003円	540,770円	503,078円	-37,692円
20代	135	343,315円	353,611円	151,596円	140,752円	286,850円	244,079円	291,000円	217,669円	261,826円	508,431円	369,515円	832,496円	462,981円
30代	135	286,611円	203,013円	318,338円	204,500円	520,698円	222,048円	525,246円	260,180円	680,425円	863,299円	823,750円	318,185円	-505,565円
40代	135	566,088円	516,267円	259,076円	326,370円	386,630円	622,420円	319,242円	359,466円	288,346円	782,691円	543,333円	221,296円	-322,037円
50代	135	553,243円	548,724円	820,793円	735,489円	597,252円	428,819円	477,222円	571,053円	389,173円	699,325円	422,239円	640,333円	218,095円
女性計	540	743,522円	906,798円	870,452円	986,291円	1,147,846円	1,274,014円	1,114,509円	1,187,775円	974,830円	1,083,987円	911,687円	741,228円	-170,458円
20代	135	293,637円	244,885円	314,067円	520,152円	623,665円	368,754円	402,621円	599,436円	830,630円	828,346円	725,399円	209,793円	-515,606円
30代	135	987,854円	679,832円	660,308円	724,735円	895,720円	812,044円	748,397円	915,076円	966,437円	736,449円	694,478円	367,741円	-326,736円
40代	135	464,228円	1,386,097円	1,228,733円	1,161,418円	1,473,986円	1,471,880円	1,407,820円	1,218,296円	1,033,433円	1,055,051円	1,002,073円	881,676円	-120,397円
50代	135	1,266,590円	1,284,750円	1,287,279円	1,544,704円	1,747,519円	2,459,861円	1,900,153円	2,020,684円	1,072,137円	1,725,000円	1,218,199円	1,505,704円	287,505円

(※) 2006年～2016年は「いい夫婦の日に関するアンケート調査」

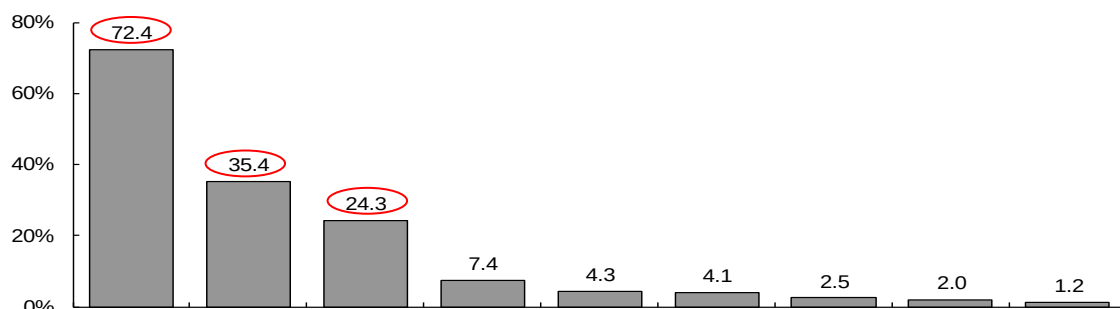
Q. へそくりはいくらありますか（金額回答）※20代～70代調べ



	回答者数 (人)	2013年 平均	2014年 平均	2015年 平均	2016年 平均	2017年 平均	2018年 平均	前年との差
全体	1620	1,042,132円	1,113,483円	929,601円	1,166,002円	1,041,921円	896,876円	-145,044円
男性計	810	620,569円	568,695円	589,058円	859,888円	735,384円	592,440円	-142,945円
20代	135	291,000円	217,669円	261,826円	508,431円	369,515円	832,496円	462,981円
30代	135	525,246円	260,180円	680,425円	863,299円	823,750円	318,185円	-505,565円
40代	135	319,242円	359,466円	288,346円	782,691円	543,333円	221,296円	-322,037円
50代	135	477,222円	571,053円	389,173円	699,325円	422,239円	640,333円	218,095円
60代	135	1,081,061円	1,044,737円	1,328,712円	1,086,008円	1,072,180円	1,173,363円	101,183円
70代	135	1,043,810円	961,832円	588,284円	1,226,791円	1,180,593円	368,963円	-811,630円
女性計	810	1,463,157円	1,657,585円	1,268,446円	1,471,737円	1,346,945円	1,201,313円	-145,632円
20代	135	402,621円	599,436円	830,630円	828,346円	725,399円	209,793円	-515,606円
30代	135	748,397円	915,076円	966,437円	736,449円	694,478円	367,741円	-326,736円
40代	135	1,407,820円	1,218,296円	1,033,433円	1,055,051円	1,002,073円	881,676円	-120,397円
50代	135	1,900,153円	2,020,684円	1,072,137円	1,725,000円	1,218,199円	1,505,704円	287,505円
60代	135	2,079,117円	2,507,408円	1,384,148円	2,699,553円	2,132,955円	1,870,370円	-262,584円
70代	135	2,284,252円	2,667,689円	2,340,152円	1,806,889円	2,301,449円	2,372,593円	71,144円

(※)2013年～2016年は「いい夫婦の日に関するアンケート調査」

Q. へそくりの目的はなんですか（複数回答）



	回答者数 (人)	いざという 時のため (%)	趣味のため (%)	将来のため (%)	家族旅行の ため (%)	子どもの教 育資金のた め (%)	マイカー購 入のため (%)	マイホーム 購入のため (%)	友人のため (%)	その他 (%)
全体	511	72.4	35.4	24.3	7.4	4.3	4.1	2.5	2.0	1.2
男性計	234	62.8	52.1	15.8	6.8	1.3	6.4	2.6	1.3	0.4
20代	44	54.5	40.9	9.1	2.3	-	13.6	6.8	2.3	-
30代	38	57.9	63.2	15.8	7.9	5.3	2.6	2.6	-	-
40代	38	71.1	57.9	7.9	5.3	2.6	2.6	-	2.6	-
50代	35	65.7	34.3	20.0	11.4	-	8.6	5.7	-	2.9
60代	49	67.3	53.1	24.5	10.2	-	8.2	-	2.0	-
70代	30	60.0	66.7	16.7	3.3	-	-	-	-	-
女性計	277	80.5	21.3	31.4	7.9	6.9	2.2	2.5	2.5	1.8
20代	44	77.3	20.5	25.0	11.4	18.2	4.5	6.8	4.5	2.3
30代	38	89.5	18.4	26.3	5.3	13.2	-	2.6	2.6	-
40代	53	83.0	9.4	37.7	5.7	3.8	1.9	1.9	-	-
50代	50	86.0	18.0	36.0	6.0	4.0	2.0	-	-	2.0
60代	42	76.2	23.8	33.3	7.1	-	-	-	2.4	-
70代	50	72.0	38.0	28.0	12.0	4.0	4.0	4.0	6.0	6.0

3. お金に関する意識

(1) 家計の状況と理由

家計における景気回復の実感はまだまだ遠い！？

家計に余裕ができたと答えた人はわずか7.7%！

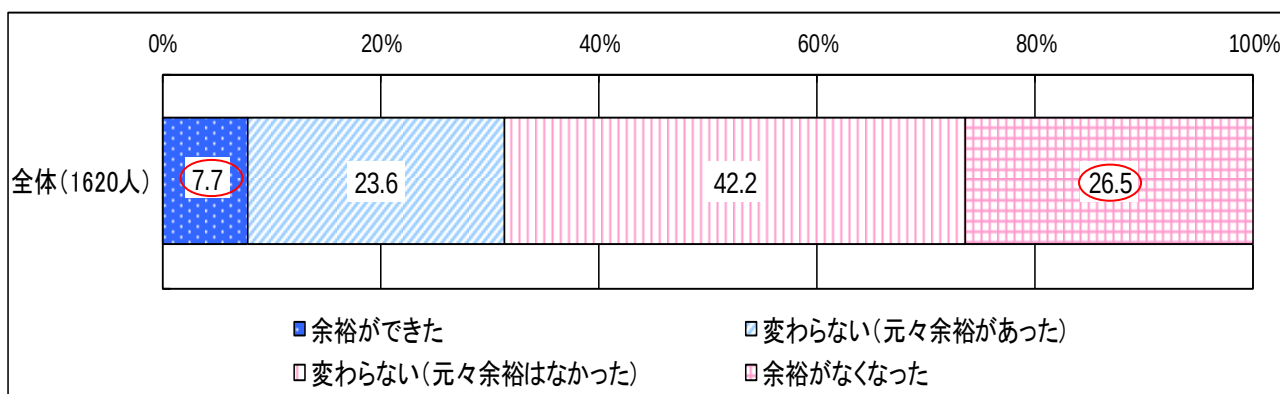
○昨年と比較し、自由に使えるお金に余裕ができたかを聞いてみました。

○「余裕ができた」と回答した人がわずか7.7%にとどまる一方、「余裕がなくなった」と回答した人は26.5%と、「余裕ができた」の3倍以上という結果となりました。

○「余裕がなくなった」理由は、「日用品・食料品への支出が増えたため」(40.2%)がトップ、次いで「給料が下がったため」(31.2%)、「電気・ガス料金の支出が増えたため」(24.9%)となりました。

○「余裕ができた」理由は、「給料が上がったため」(46.8%)がトップとなり、次いで「副業を始めたため」(15.3%)、「日用品・食料品への支出が減ったため」(14.5%)となりました。

Q. 昨年と比較し、「(自由に使える) お金」に余裕ができましたか



～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

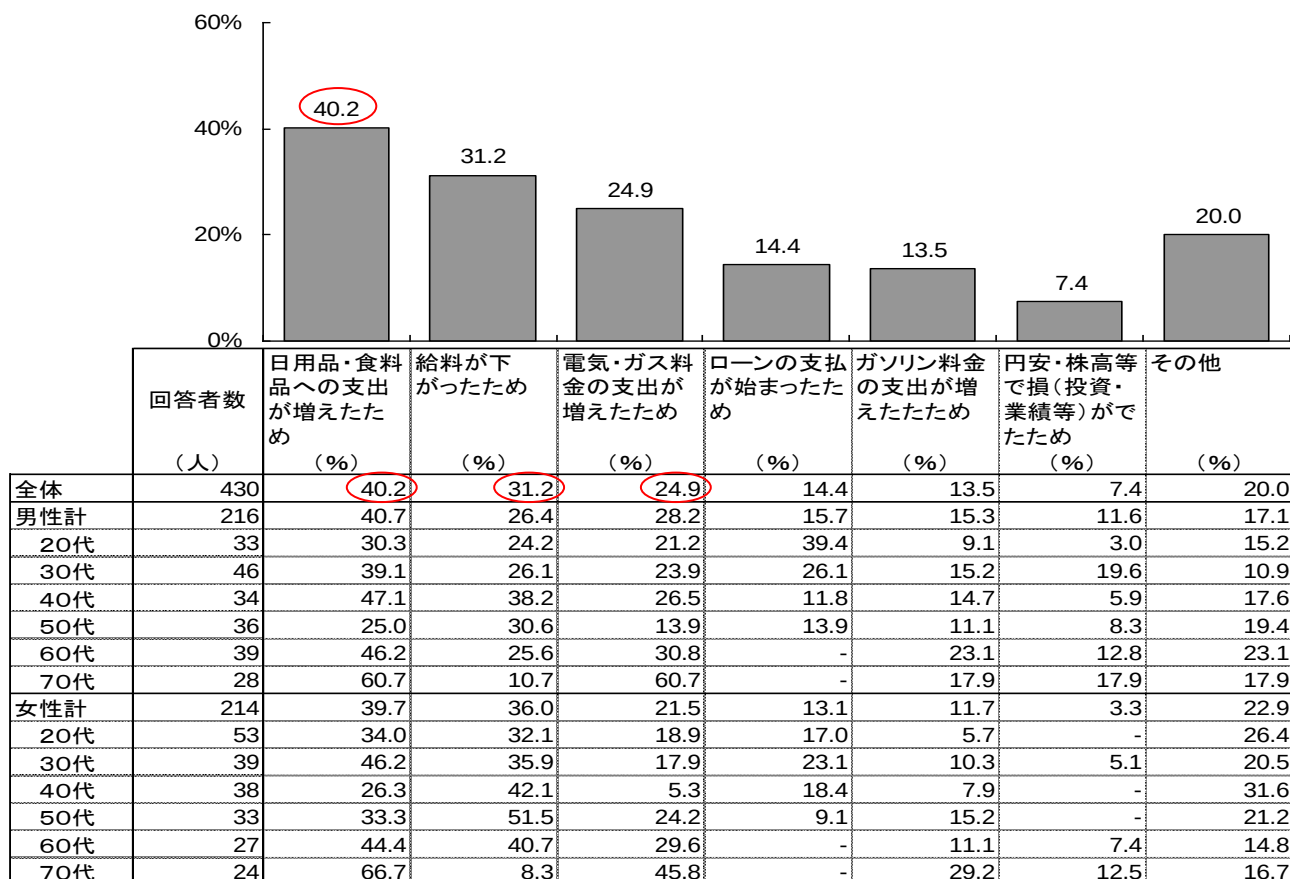
■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



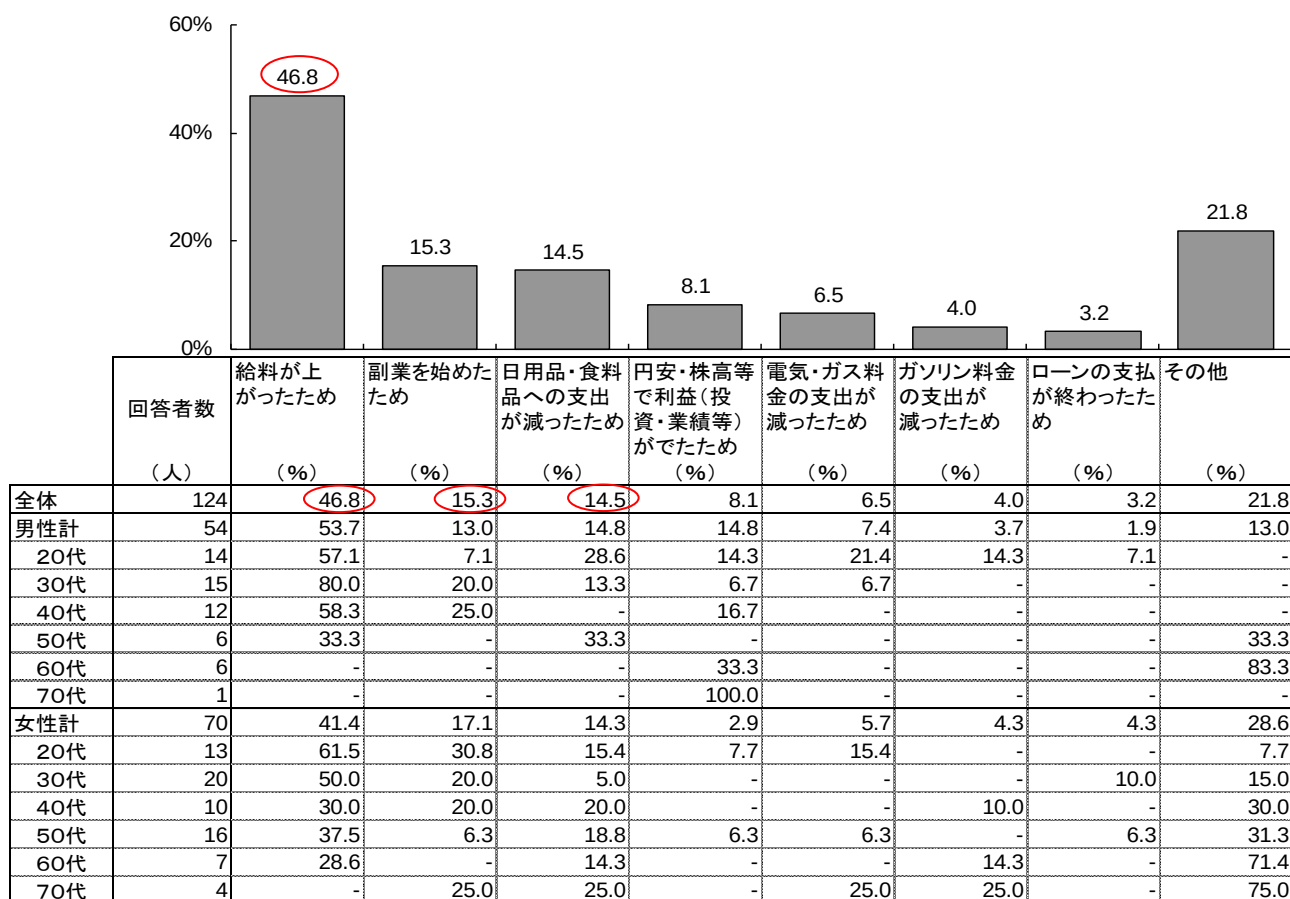
●家計の状況について

「余裕ができた」と回答した人がわずか7.7%にとどまっているのはショッキングです。日本の景気回復はすでに5年以上続いているにもかかわらず、その恩恵がまだ消費者に十分行きわたっていない様子を示しています。賃金は上昇基調にあるとはいえ、そのペースが依然として鈍いため、光熱費の値上がりや社会保険料の負担増が上回ったことで、逆に余裕がなくなった家計が増えているということでしょう。「誰もが実感できる景気回復」は依然遠いと言わざるをえません。

【余裕がなくなった理由】（複数回答）



【余裕ができた理由】（複数回答）



3. お金に関する意識

(2) 節約意識と節約方法

節約意識を持っている人は全体の約8割！ 節約方法は、日常生活の身近なことから！

○節約意識と節約方法について聞いてみました。

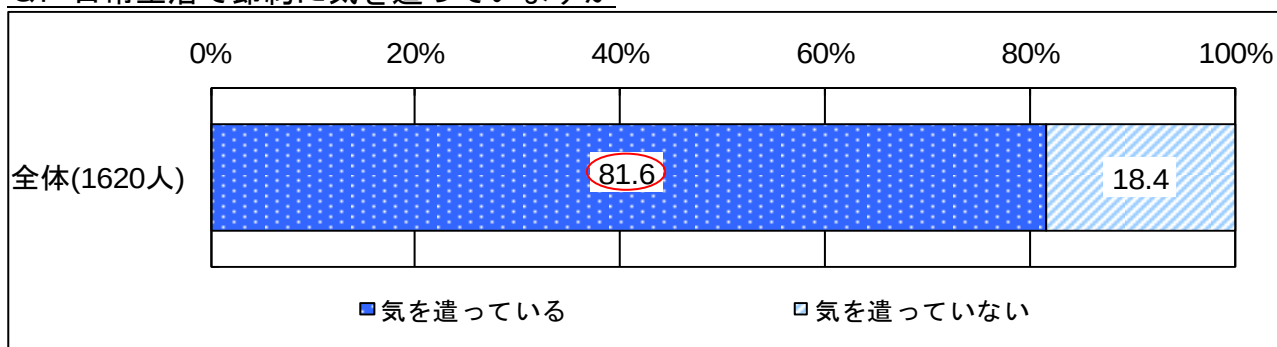
○節約に対する意識では、節約に「気を遣っている」が81.6%と、節約意識を持っている人が圧倒的に多い結果となりました。

○男女別では、男性が76.8%に対し、女性は86.4%と、節約に対して女性の方が意識が高い結果となりました。家計を握ることが多い女性は、日々の節約に意識が高いようです。

○節約方法では、「電気をこまめに消す」(76.1%)がトップ、「冷暖房の温度を調整する」(53.1%)が続きました。節約方法は、日常生活の身近なことから始めている人が多く、自由化が話題となった電力会社の変更や、番号ポータビリティを活用した携帯電話会社の変更は、まだまだ約1割にとどまっています。

○男女別では、男性は「飲み会を減らしている」が女性と比較し高い結果となりました。一方、女性は、「カードポイントを活用している」、「クーポンを活用している」等のコツコツ実践する節約方法が男性と比較し、高い結果となりました。

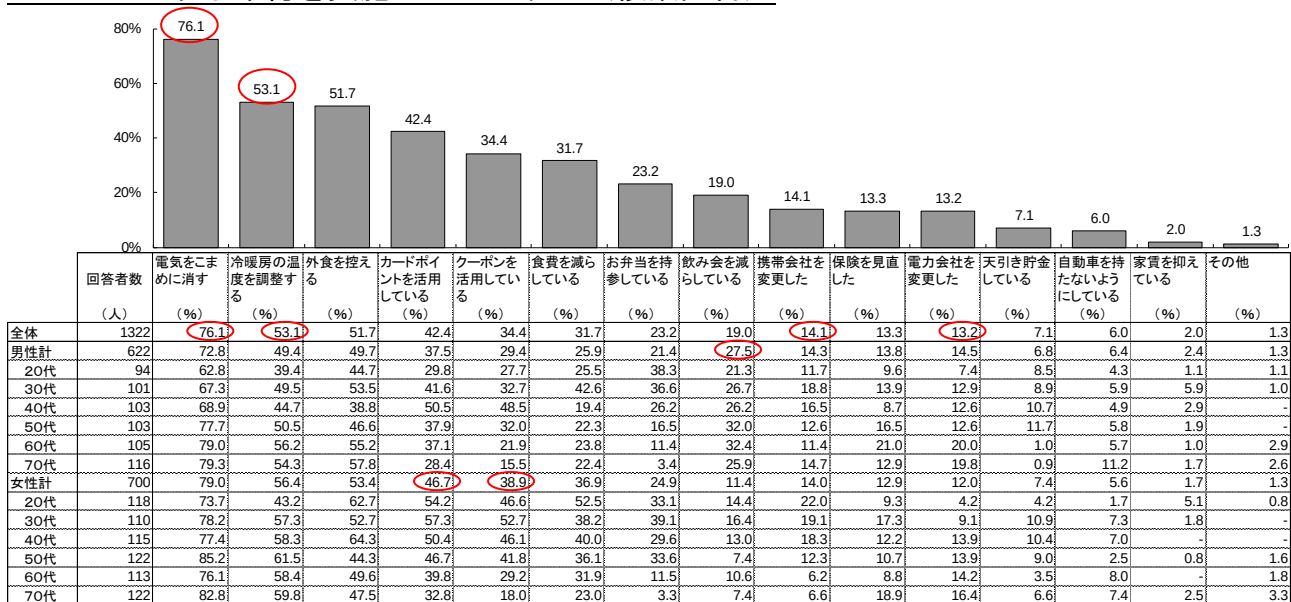
Q. 日常生活で節約に気を遣っていますか



【節約意識の詳細】

	回答者数 (人)	気を遣っている (%)	気を遣っていない (%)
全体	1620	81.6	18.4
男性計	810	76.8	23.2
20代	135	69.6	30.4
30代	135	74.8	25.2
40代	135	76.3	23.7
50代	135	76.3	23.7
60代	135	77.8	22.2
70代	135	85.9	14.1
女性計	810	86.4	13.6
20代	135	87.4	12.6
30代	135	81.5	18.5
40代	135	85.2	14.8
50代	135	90.4	9.6
60代	135	83.7	16.3
70代	135	90.4	9.6

Q. どのような節約を実施していますか（複数回答）



3. お金に関する意識

(3) 節税意識と節税方法

節税対策には、ふるさと納税が人気！
男性はNISA、iDeCo等を活用した資産運用への関心が高い！

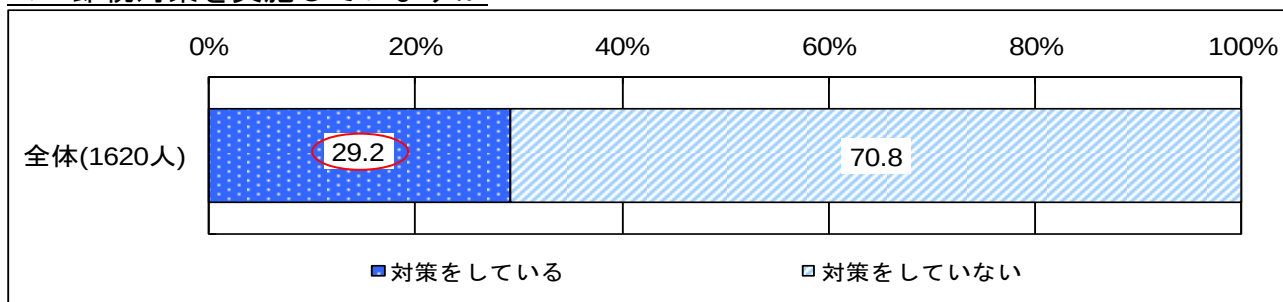
○節税意識と節税方法について聞いてみました。

○「節税対策をしている」と回答した人は29.2%と、節税意識を持っている人は約3割という結果となりました。

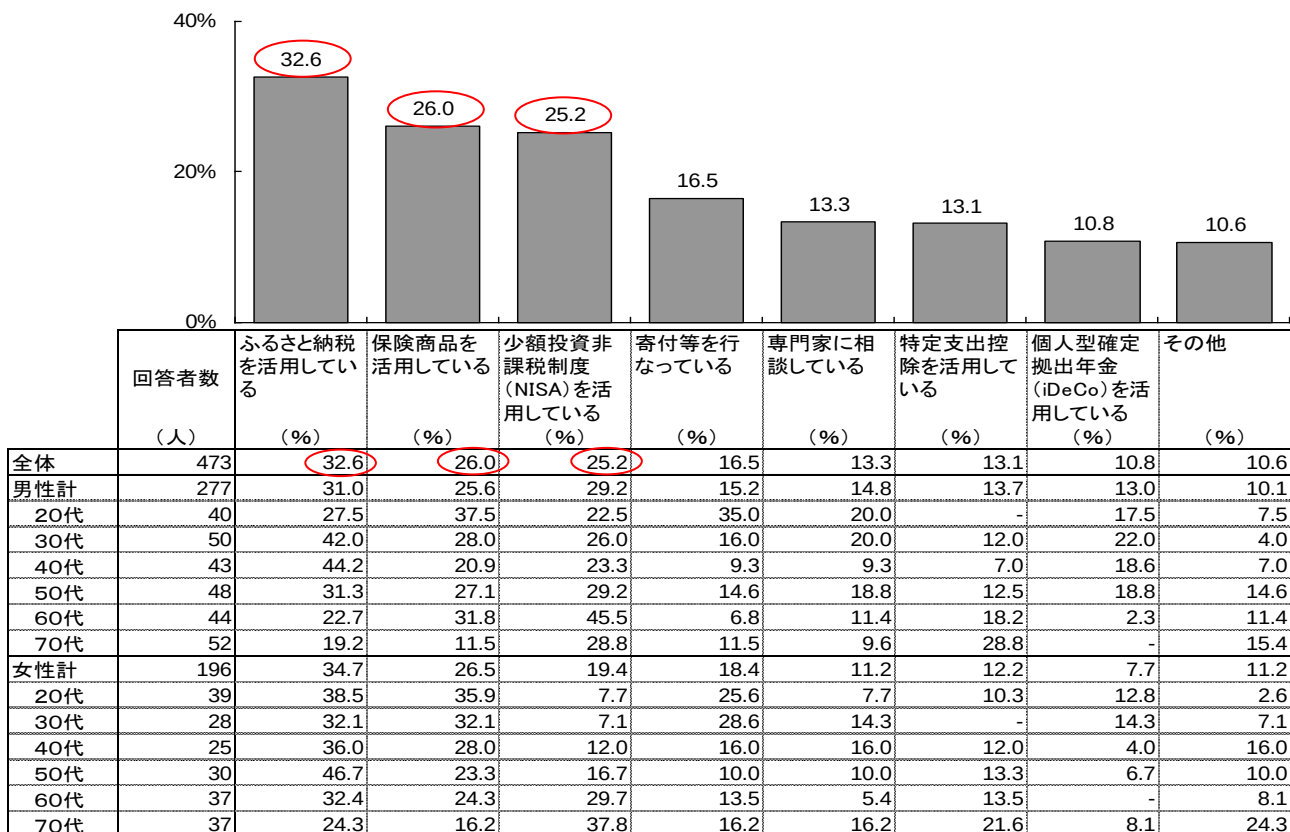
○実施している節税対策では、「ふるさと納税を活用している」(32.6%)でトップとなりました。総務省が自治体が贈る返礼品の調達額を寄付額の3割以下とする目安を示す等、ふるさと納税のあり方が話題となっていますが、気軽にできる節税対策として、人気が継続しているようです。また、「保険商品を活用している」(26.0%)、「少額投資非課税制度(NISA)を活用している」(25.2%)等も人気が高い結果となりました。

○特に男性は、「少額投資非課税制度(NISA)」や「個人型確定拠出年金(iDeCo)」等を活用した資産運用への関心が高いようです。

Q. 節税対策を実施していますか



Q. どのような節税対策を実施していますか (複数回答)



3. お金に関する意識

(4) 持ち歩く金額

持ち歩く金額平均は「16,875円」！
 キャッシュレス化への道はまだ遠い！？
 持ち歩く金額を「0円」と回答したのはわずか、4.6%！

○ふだん持ち歩く金額について聞いてみました。

○持ち歩く金額は、「5千円超～1万円」（30.9%）が最多、「1万円超～2万円」（22.8%）、「2万円超～3万円」（14.6%）と続き、全体平均では、「16,875円」という結果となりました。

○男女別では、男性が平均「17,883円」に対し、女性は平均「15,868円」と、男女で約2千円の違いがありました。男女間の節約意識の差が持ち歩く金額にも表れているのかもしれません。

○また、持ち歩く金額が「0円」と答えた人は4.6%、男性では5.9%という結果となりました。世界的にみるとキャッシュレス化が遅れている日本ですが、政府は「未来投資戦略2017」において、キャッシュレス決済比率を倍増させる目標を掲げるなど、今後はクレジットカードやオートチャージ機能付きの交通系ICカード等の普及により、今後はさらに現金を持ち歩かない人が増えていくのかもしれません。

Q. ふだん持ち歩く金額はいくらですか（金額回答）

	回答者数 (人)	0円 (%)	～3千円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	3万円超 (%)	回答者数 (人)	平均 (円)
全体	1620	4.6	8.0	10.9	30.9	22.8	14.6	8.3	1620	16,875
男性計	810	5.9	8.0	9.8	26.7	23.8	15.1	10.7	810	17,883
20代	135	7.4	11.1	11.9	28.1	20.0	15.6	5.9	135	15,063
30代	135	4.4	9.6	11.1	36.3	21.5	11.9	5.2	135	14,933
40代	135	3.7	11.9	8.1	27.4	23.7	14.1	11.1	135	18,093
50代	135	5.9	7.4	11.9	23.7	20.0	18.5	12.6	135	18,645
60代	135	7.4	2.2	8.1	20.0	27.4	18.5	16.3	135	20,807
70代	135	6.7	5.9	7.4	24.4	30.4	11.9	13.3	135	19,756
女性計	810	3.2	8.0	12.0	35.1	21.7	14.2	5.8	810	15,868
20代	135	5.2	11.9	18.5	38.5	15.6	5.9	4.4	135	12,063
30代	135	4.4	5.9	17.8	37.0	19.3	9.6	5.9	135	14,045
40代	135	1.5	16.3	15.6	33.3	15.6	13.3	4.4	135	13,467
50代	135	3.0	8.1	8.1	36.3	23.7	17.8	3.0	135	15,770
60代	135	3.0	2.2	8.1	28.9	27.4	22.2	8.1	135	20,045
70代	135	2.2	3.7	3.7	36.3	28.9	16.3	8.9	135	19,815

4. 働き方とお金

(1) 給与の満足度と理由

生活にゆとりなし！？現在の給与に満足している人はわずか14.3%！
給与に満足していない理由は、「貯蓄をするお金がないから」がトップ！

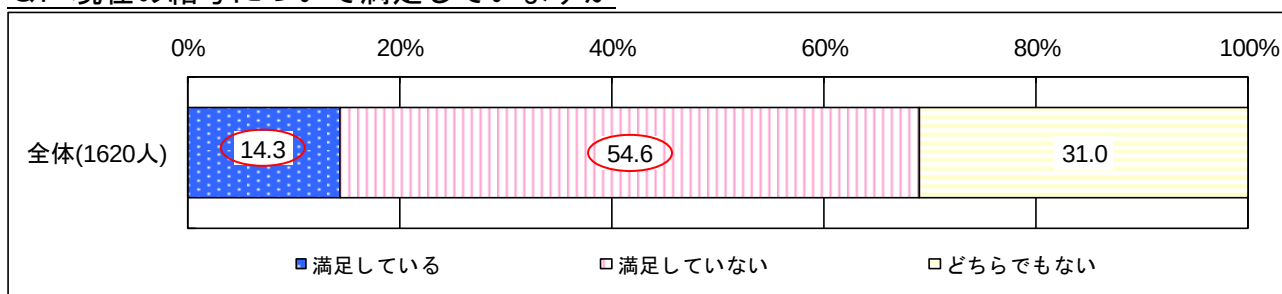
○現在の給与の満足度とその理由について聞いてみました。

○現在の給与に「満足している」と回答した人は14.3%にとどまり、「満足していない」と回答した人の54.6%を大きく下回りました。

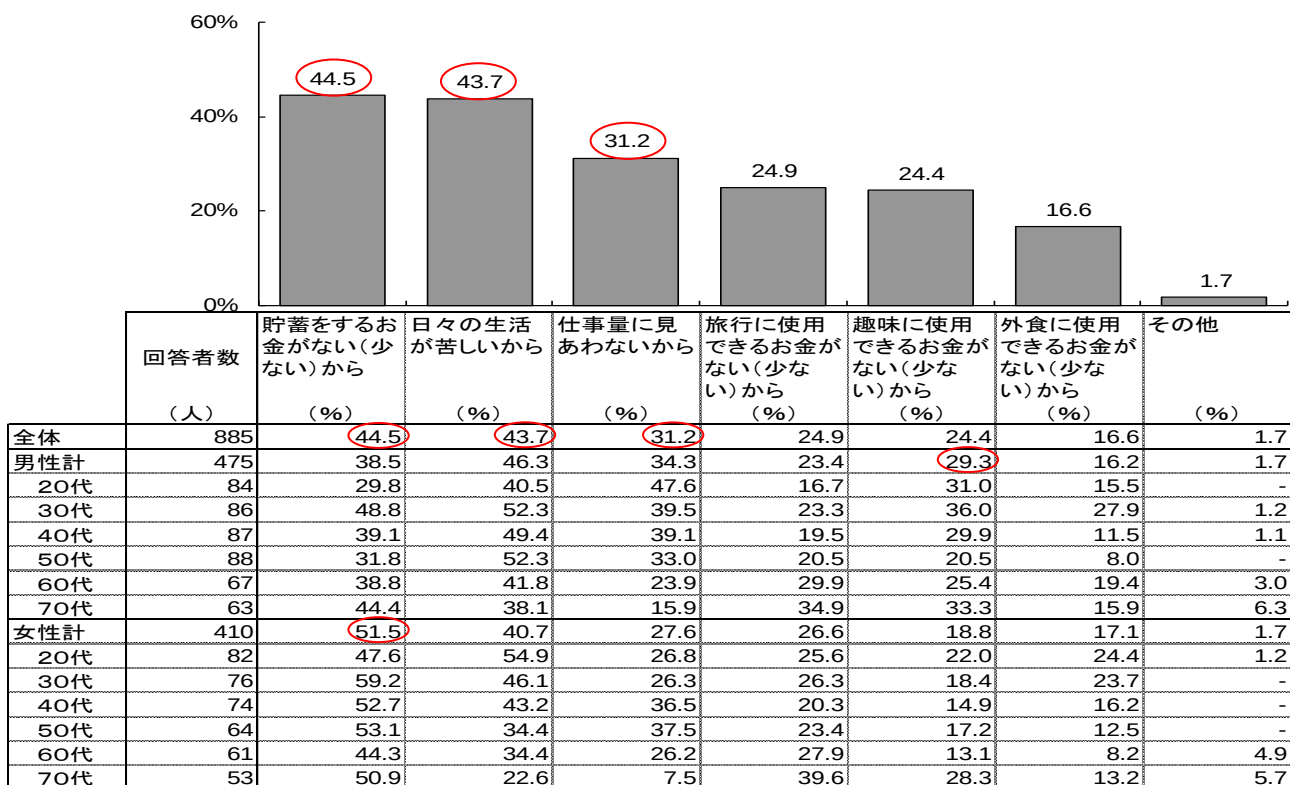
○給与に満足していない理由については、「貯蓄をするお金がない(少ない)から」(44.5%)がトップ、「日々の生活が苦しいから」(43.7%)、「仕事量に見合わないから」(31.2%)と続きました。

○男女別では、男性は、「趣味に使用できるお金がない(少ない)から」が、女性と比較し高い結果となりました。一方、女性は、「貯蓄をするお金がない(少ない)から」が男性と比較し高い結果となりました。男性は、趣味を充実させられないことに不満を多く抱いている一方、女性は貯蓄ができないことに不満を抱いているようです。

Q. 現在の給与について満足していますか



【満足していない理由】(複数回答)



4. 働き方とお金

(2) 副業と副業をする理由

**20代男女の約5人に1人が「副業をしている」と回答！
潜在的な労働力？約5割の人が「副業をしていないが、興味あり」！**

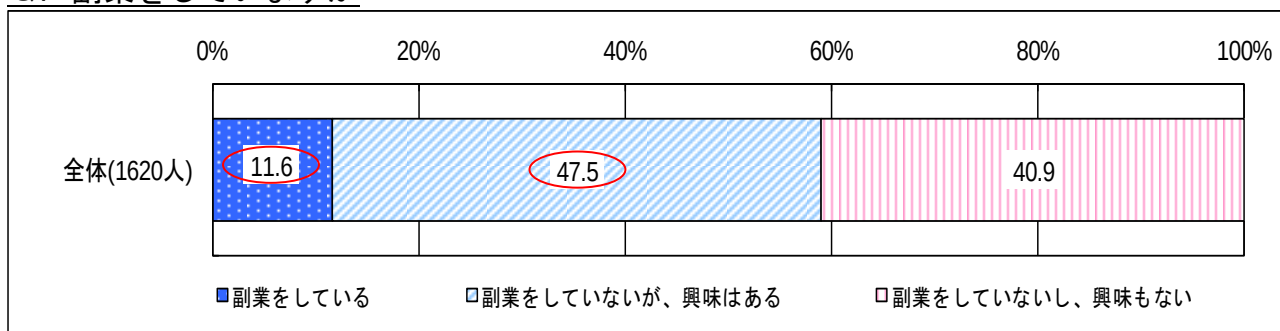
○副業と副業をする理由について聞いてみました。

「副業をしている」と回答した人は、11.6%となりました。一方、世代別にみると、20代男性は、20.7%、20代女性は、19.3%と平均を大きく上回り、約5人に1人が副業をしているという結果となりました。また、「副業をしていないが、興味はある」と回答した人は、約半数（47.5%）となり、特に30代の男女で6割を超えるなど、人手不足が深刻な昨今、潜在的な労働力として救世主となりえるのかもしれませんが。

○副業をする理由では、「時間を有効活用するため」（38.3%）がトップ。特に20代は、男性が42.9%、女性が57.7%と、気軽にできるインターネット等を使った副業が増えているのかもしれませんが。続いて、「生活をするために必要なため」（33.5%）、「趣味にお金を使用するため」（32.4%）という結果となりました。

○副業による年収は、「10万円未満」（31.9%）、「30万円未満」（26.6%）が多い結果となりました。

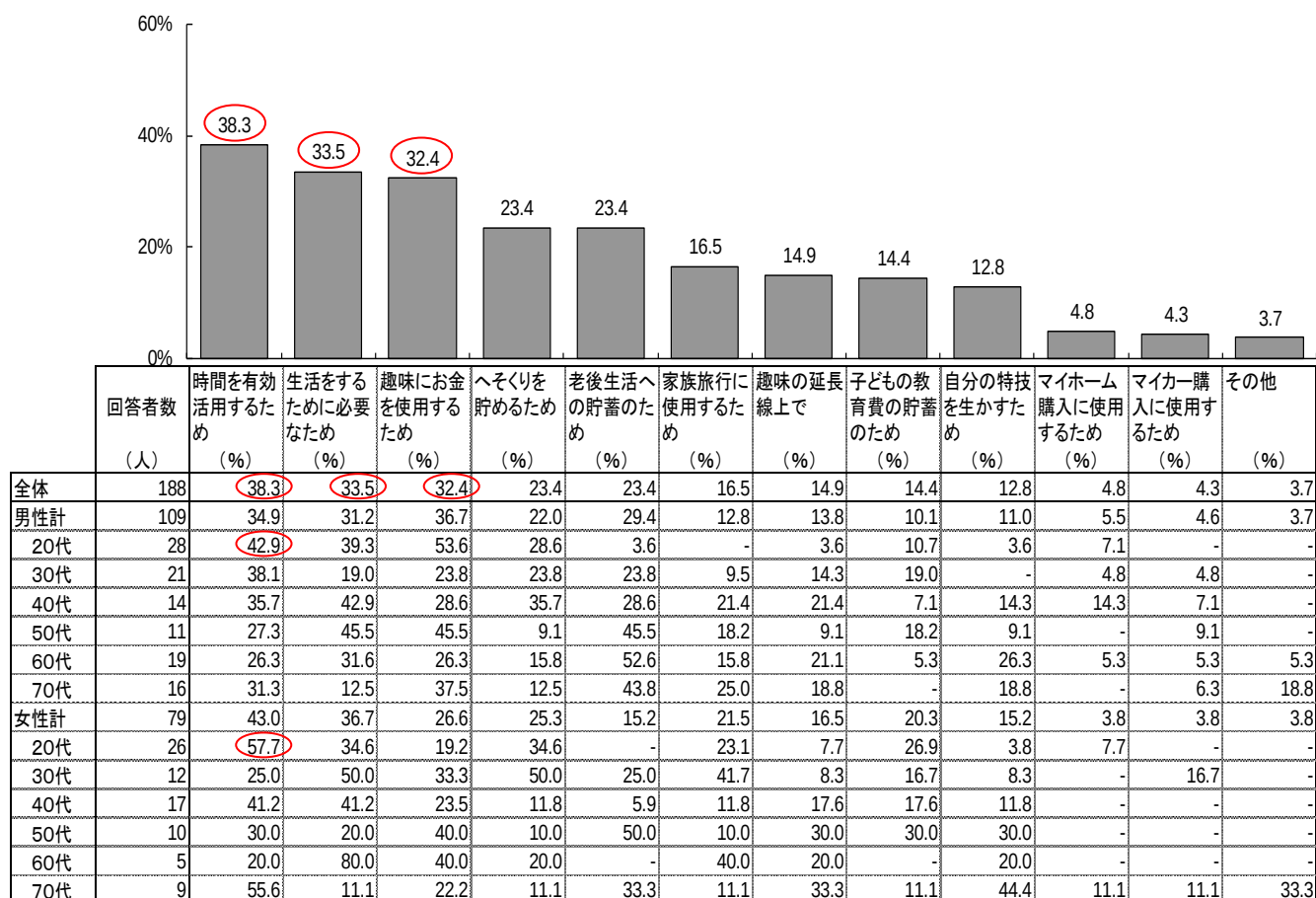
Q. 副業をしていますか



【副業の詳細】

	回答者数 (人)	副業をしている (%)	副業をしていない が、興味はある (%)	副業をしていないし、 興味もない (%)
全体	1620	11.6	47.5	40.9
男性計	810	13.5	47.2	39.4
20代	135	20.7	53.3	25.9
30代	135	15.6	60.0	24.4
40代	135	10.4	55.6	34.1
50代	135	8.1	46.7	45.2
60代	135	14.1	37.0	48.9
70代	135	11.9	30.4	57.8
女性計	810	9.8	47.9	42.3
20代	135	19.3	59.3	21.5
30代	135	8.9	65.9	25.2
40代	135	12.6	54.8	32.6
50代	135	7.4	45.9	46.7
60代	135	3.7	34.8	61.5
70代	135	6.7	26.7	66.7

Q. 副業をする理由はなんですか（複数回答）



Q. 副業による年間収入はいくらぐらいですか（金額回答）

	回答者数 (人)	～10万円 未満 (%)	～30万円 未満 (%)	～50万円 未満 (%)	～100万円 未満 (%)	100万円以 上 (%)	平均 (万円)
全体	188	31.9	26.6	7.4	15.4	18.6	66

4. 働き方とお金

(3) 女性の「収入の壁」と理想の収入

**「収入の壁」が女性活躍の壁！？配偶者控除引き上げ後も、約4人に1人が「収入の壁」を意識！
「収入の壁」がなければ、約250万円の年収を希望！**

○今年から、38万円の配偶者控除を差し引ける妻の年収基準（収入の壁）が、103万円から150万円に引き上げられました。

（※）150万円を超えても201万円までは、夫の所得が一定の範囲内であれば、配偶者特別控除が受けられます

○働く女性に、配偶者控除等の税制や社会保障制度による「収入の壁」と理想の収入について聞いてみました。

○働く女性のうち、「収入の壁」を意識していると回答した人は、23.9%と、約4人に1人が「150万円」の「収入の壁」を意識しているということがわかりました。

○また、「収入の壁」を意識していると回答した人に、「収入の壁」がない場合の希望年収を聞いたところ、全体平均は「250万円」となり、「収入の壁」となる年収との差が100万円あることがわかりました。

Q. 配偶者控除等の税制や社会保障制度による「収入の壁」を意識していますか（女性のみ）

	回答者数 (人)	「収入の壁」を意識している (%)	収入額が大きく届かないため、意識していない (%)	収入額が大きく超過しているため、意識していない (%)	特に意識していない (%)
女性計	310	23.9	16.8	10.3	49.0
20代	65	23.1	10.8	18.5	47.7
30代	58	29.3	17.2	12.1	41.4
40代	77	35.1	22.1	6.5	36.4
50代	73	16.4	20.5	9.6	53.4
60代	29	10.3	6.9	3.4	79.3
70代	8	-	12.5	-	87.5

Q. 「収入の壁」がなければ、いくら年収がほしいですか（複数回答）

	回答者数 (人)	～150万円未満 (%)	～200万円未満 (%)	～300万円未満 (%)	～500万円未満 (%)	～1000万円未満 (%)	1000万円以上 (%)	平均 (万円)
女性計	74	10.8	17.6	41.9	18.9	9.5	1.4	250